

第 213 号

ほほえみの会

2020.2.21

「静岡県立こども病院地域医療委員会」に参加しました。

委員会ではこども病院の地域連携の実績や連携室の活動報告、加えて移行医療の対応について報告があり意見交換をしました。

移行医療については、静岡県議会で「移行医療センターの設置」が提案され 3 月中旬に決定する見込みで、決定したらこども病院にセンターを設置するということです。

センターは全領域の AYA 世代を対象とするもので、こども病院ではすでに 2 月から兼任スタッフで移行医療支援センターを組織化しており、4 月以降は県の委託を受ける形で運用していく予定で、まずは HP などで情報発信から始めるということです。

また、一緒に取り組む県立総合病院にも「移行医療部」を新設し、全国でも先駆けて設置される「小児・AYA 世代腫瘍科」など 4 つの科ができ、こども病院の医師も配置される予定です。すでに県立総合病院とも打合せを始めていますが、県総の医療スタッフは移行医療の認識が低いようでこども病院の医師が入って体制づくりを進めていくということです。

私からは、ほほえみの会の話題として

- ① こども病院が小児がん拠点病院になったことで設置された相談室が非常に評判がいい。拠点病院になったことのメリットをさらに増やしてほしいとお願いをしました。これに対して院長からは、拠点病院になったことで 4 月から 2 人のスタッフを増強する。また建物も増築し、AYA 対応を含めての環境整備をする、さらに全てではないが病棟のクリーン化も進めるとのことでした。
- ② 小児がんが治る時代になって、入院時から復学について考え、体力回復やリハビリにも早くから対応をしていくと聞いているが、遊ぶ場所やスタッフについての補強もお願いしたい。これに対しては、今後はリハビリ科での入院を受け入れる、また専門医を常勤化させることにした、ということで体制を整えてレベルアップを図っていくということです。さらに、レスパイトベッドの認可を受けることができた。これまでは急性期病院ということで認められなかったが 2 年越しで許可を得ることができた。今後は短期のレスパイトで医療が必要ならばそのまま入院もできるようになる、とのことでした。
- ③ 入院中の子供たちに保育士さんの存在はありがたい。ただ患児には兄弟もいるので、病棟で兄弟も含めて保育士さんが面倒を見てもらえるようにできないか。これに対しては、一番の問題は感染であり、この壁をどう乗り越えるかがが課題でいい形ができないか考える、とのことでした。